川崎支部のあゆみ

- •昭和23年3月川崎協同組合会社設立、昭和25年7月解散
- •昭和27年11月3日川崎板金組合発足
- ・昭和38年川崎・田島・御幸、大師の4地域の板金業者の有志97名により、川崎板金業組合を設立 (川崎板金業組合と川崎板金組合に分かれる)
- ・昭和42年2月23日神奈川県板金工業組合発足 県板発起人9名の内、県板の会計として川崎代表者、島永輔雄氏就任。 川崎板金業組合は神奈川県板金工業組合川崎支部となる。
- ・昭和56年11月3日川崎板金業組合30周年記念式典を開催。
- ・平成13年1月川崎板金組合が神奈川県板金工業組合加入に伴い川崎 I 支部と川崎 II 支部に成る。 その後、川崎板金組合解散の為、川崎板金業組合は川崎支部に戻る。

組合員の老齢化や不景気のあおりを受けて、廃業する組合員が増え始め、若手の加入も無いまま、 現在では僅か5名の組合員と成っております。

歴代の組合長

初代	三ツタ	F朝四郎	昭和27年11月3日就任
2代	小林	銀二	昭和33年1月3日就任
3代	金澤	喜平	昭和38年11月3日就任
4代	小林	銀二	昭和40年11月3日就任
5代	島永	輔雄	昭和41年11月3日就任
			(初代 県板支部長)
6代	内田	登一	昭和43年11月3日就任
			(2代 県板支部長)
7代	山本	武男	昭和44年1月3日就任
			(3代 県板支部長)
8代	赤木	五郎	昭和49年11月3日就任
			(4代 県板支部長)
9代	蛎崎	兵三	昭和51年11月3日就任
			(5代 県板支部長)
10代	中村	量貢	昭和58年11月3日就任
			(6代 県板支部長)
11代	渡辺	仁	昭和62年11月3日就任
			(7代 県板支部長)
12代	小林	隆司	平成3年11月3日就任
			(8代 県板支部長)
13代	井上	輝夫	平成7年11月3日就任
			(9代 県板支部長)
14代	石川	亨	平成11年11月3日就任
			(10代 県板支部長)
15代	島永	義治	平成23年3月3日就任
			(11代 県板支部長)

支部組合員

小林 清 (小林板金店)島永 義治 (島永錻力店) 理事・総代・国保中村 貢 (旬ナカムラ工業)古畑 哲也 (古畑板金工業)溝上 稔 (溝上板金工業所)



支部紹介

平成29年、区制90周年を迎えます。JRと京浜急行が通り、国道1号線に15号線と幹線道路が縦断し、首都高速横浜線が眼上にそびえています。東京へ行くにも横浜へ行くにも交通の便は最高の地です。大黒埠頭からベイブリッジを渡れば本牧へも数分ですから磯子区や金沢区も隣接してる感覚です。江戸時代には参勤交代で各藩のお殿様が通過した地なので、文久2年(1862)8月に生麦事件が起こり、幕府は多大な損害賠償金をイギリスに支払いました。その時の碑が建っており、日曜など旧東海道ウォーキングの方々が立ち寄っています。大本山総持寺には石原裕次郎の墓があり供え花が絶えないようです。ぜひ、鶴見へお立ち寄りください。

支部沿革

昭和29年頃に初代組合長らが地域の同志に呼びかけ鶴見板金加工組合として創立。昭和41年、労 災保険事務組合としての許可を受ける。昭和42年、神奈川県板金工業組合の創立に伴い加入。平成 に入り組合員の高齢化が進み、後継者不足で組合員減少が難題となっています。13代目組合長、塩 田力氏が平成16年に黄綬褒章を受賞された事を励みとして現在9名の組合員一丸となり、歴史ある 組合を守っていく所存です。御指導、御鞭撻のほど、宜しくお願いします。

歴代支部長

初代 小泉 熊吉 (昭和29年~30年)
2代 吉田庄次郎 (昭和31年~32年)
3代 磯ヶ谷幾造 (昭和33年~34年)
4代 長澤彦太郎 (昭和35年~36年)
5代 平山 収 (昭和37年~38年)
6代 関根与四郎 (昭和39年~40年)
7代 辻永 太郎 (昭和41年~44年)
8代 池田 次郎 (昭和45年~46年)
9代 宮澤 清 (昭和47年~52年)
10代 塩田 力 (昭和53年~60年)
11代 古塩 博 (昭和61年~平成元年)
12代 野沢 広海 (平成2年~3年)
13代 塩田 力 (平成4年~13年)

14代 齋藤 真人(平成14年~現在)

支部活動

定例会 毎月 労災保険事務 毎月 総会及び新年会 1月 木建協パトロール 年6回



支部歴代支部長

設立初代	歌川菊治郎
二代目	座間千代治
三代目	土井 正隆
四代目	阿部 巴夫
五代目	歌川菊治郎
六代目	歌川明
七代目	本宮 三郎
八代目	星野美智男
九代目	高野 國俊
28年支部長	高野 國俊
28年副支部長	石田 猛郎

組合員18名青年部8名

年間行事

定時総合2月定例会毎月7日忘年会12月

28年副支部長

昭和35年に(神奈川支部より)独立してから港北支部を設立となり平成28年現在56年を迎えることができました。組合員一同いっそう団結し板金業界のため貢献してまいります。よろしくお願い致します。

佐藤 真司



支部歴代支部長

明治42年~大正8年	昭和49年~昭和56年
初代支部長藤井千代松	9 代目 田村 治作
大正9年~昭和4年	昭和57年~昭和57年
2 代目 高橋 幸吉	10代目 拓殖 松雄
昭和5年~昭和15年	昭和58年~昭和62年
3 代目 大濱 省三	11代目 長岡光太郎
昭和16年~昭和18年	昭和63年~平成8年
4代目 内田 梅吉	12代目 玉田 正
昭和19年~昭和20年	平成 9 年~平成18年
5 代目 池辺熊次郎	13代目 中谷 幹夫
昭和21年~昭和23年	平成19年~平成22年
6 代目 北見清次郎	14代目 村田 隆男
昭和24年~昭和26年	平成23年~平成24年
7 代目 野村幸三郎	15代目 高畑 幸治
昭和27年~昭和48年	平成25年~現在に至る
8 代目 別府喜平次	16代目 村田 隆男

現在の支部員

 村田
 隆男
 内田健次郎
 田村
 市郎

 古川
 徹
 別府
 喜一
 高畑
 友介

 世界
 恵安
 香港











支部のあゆみ ――――― 緑 支 部

50周年に向けて

緑支部長 市川 満

神奈川県板金工業組合設立50周年おめでとうございます。

緑支部は、昭和44年港北区から分区して緑区が誕生した際、区内の事業所がある組合員が、港北支部から独立しようという気運が高まり、昭和48年に誕生しました。初代支部長に土井正隆氏が就任し、支部員11名でスタートしました。

その後、支部長は市川圭二氏、前島正美氏、金子保久氏と歴任しました。

時代が昭和から平成に代わるころより、後継者問題や組合員本人の怪我や病気などで、徐々に人数が減り、残念ながら平成23年4月から緑支部は1名となってしまいました。

今後、新しい組合員が加入するよう、組合活動の意義を地域の事業所の方々に情宣していこうと思います。





旭・瀬谷支部は、昭和46年に保土ヶ谷支部から分離、横浜市の、西部にある旭区、瀬谷区が、一緒になり嶋田行光さんが、先頭になりその年に、旭・瀬谷支部を創設。創設時支部員15名。

歴代支部長

初代支部長 嶋田 行光(昭和46年~昭和56年)10年間 二代目支部長 松崎 弘(昭和57年~昭和62年)6年間 三代目支部長 嶋田 行光(昭和63年~昭和64年)2年間 四代目支部長 三浦 貞夫(平成2年~平成25年)24年間

五代目支部長 山内 昭次(平成26年~現在まで)

今までの主な行事 平成22年に、各事業所の看板を製作した。



神奈川県板金工業組合創立50周年を、心から当旭・瀬谷支部員一同お祝い申し上げます。

年間行事

板金組合行事へ、参加 暑気払い(9月) 忘年会(12月)

平成28年6月現在 旭・瀬谷支部員7名

支部長 山内 昭次 総 代 松崎 信治会 計 深井 浩士

金沢 和弘 三浦 信弘 深井 健史 鶴巻 秀樹



村田理事長、副理事長、組合員の皆様、どうぞご指導、ご協力お願い申し上げます。

旭•瀬谷支部一同

支部のあゆみ ______ 西 支 部

神奈川県板金工業組合50周年おめでとうございます。

40周年から10年は、起伏の少ない期間だったように思えますが、西支部においては支部員の減少が顕著で現勢力は、3事業所と成り、支部の活動は皆無の状態で、寂しい限りです。そんな中、明るい兆しは若い人が、増加している事業所の存在で今後に、大いに期待しています。そして、先々のことを考えると支部の再編は、必然のことでは無いでしょうか? 活気の有る支部にするには避けて通れぬ道だと思われます。今後の組合の発展に寄与出来得れば幸いです。

歴代支部長

初代 斉藤 幸作

2代 鈴木 春夫

3代 斉藤 吉治

4代 服部 光治(途中から斉藤邦通)

5代 斉藤 正雄

6代 井伊谷政次

6代 沼田 郁夫

7代 三村 清

8代 沼田 郁夫 の各氏です



支部紹介

神奈川県庁や横浜市庁、横浜地方裁判所、神奈川県警察本部など、神奈川県内の行政機関が集中している中心的な区です。

1859年、横浜港が開港する。関内地区(旧・横浜村)を居留地として外国人で栄え、横浜市の市名のもととなった地域でもあります。第二次世界大戦後は区内の大半がアメリカ軍に接収され、復興に大きな支障を来しました。

昔中区山手地区には、明治初期より太子講組合という建築関係の組合があり、板金業者も大正時代に入会していた記録があったと聞いています。横浜は板金業発祥の地であり、戦争中は材料の配給及び仕事に使う炭まで分配したりして諸先輩のご苦労は、大変な事であった様です。中支部はもともと、組合員数が多く、中一・中二と二つに分かれていました。それが跡目問題・脱退等により、中支部と一括りになり、今では4つの業者のみとなってしまいました。過去の記念誌を見てみますと、組合員数も今や三



分の一まで減少しています。仕事内容も当時とはだいぶ変わっていますし、同業種で固まってもしょうがないという声も聴きます。ですが、仕事の助人、板金やそれに限らず仕事に関する講習、情報交換等、同業だからこそ出来ることも多々あるでしょう。

村田理事長を筆頭に執行部、理事の皆様には貴重な時間を割いて組合のために尽力して頂き、心より感謝とお礼申し上げます。

この度、神奈川県板金工業組合創立50周年という節目を迎え、次の10年そして100周年を迎えられるよう、益々の発展と魅力ある組合になるよう中支部一同努力、尽力してまいる所存であります。 組合員の皆様には、どうぞご指導、ご協力お願い申し上げます。

歴代支部長

初代 佐藤安太郎 二代目 櫻井 善治太郎 三代目 嬰村 事橋堅太郎 二代目 克代目 克代目 克代目 克斯縣 工作 电点 高橋 工作 日 高橋



支部紹介

我が保土ヶ谷支部は昭和12年頃設立されたと言われています。当時の歴史は今の支部員では計り 知れない努力と苦難によって設立されたと思います。

昭和50年に保土ヶ谷区と旭区が区整により分かれ、現在の保土ヶ谷支部となり、今年で42年を迎えることとなりました。現在支部員は、親から家業を引き継いだ2代目、3代目が活躍しています。5名と少ない人数ですが、初代、4代青年部長が今の支部員の中から選出されています。

多くが20代のころから保土ヶ谷支部青年部として活動 してきたメンバーなので気心の知れた構成になっていて、 決定しなければいけないところは即決の勢いがあります。

また、材料店㈱ナリマツが賛助会員として加入してい



ただいており新製品紹介、工法、特殊部材等、支部会にて議論を重ねています。円熟した年齢を越えた支部員が多くなり、多少の不安に駆られつつ頑張っていこうと支部員一同努力しています。

歴代支部長

初代 佐藤 四朗

2代 鈴木 真治

3代 澤田松次郎

4代 丸山松太郎

5代 前原 茂

6代 鈴木 定雄

7代 萩原 武雄

8代 佐藤 孝

9代 鈴木 康男

10代 萩原 繁夫(現在に至る)



南支部の活動の歩み

南区は昭和18年11月まで、元は横浜の中心地とも言える中区であった。その中区から分離した際に中区の南に位置したことから南区と命名された。鎌倉街道に平行するように大岡川が流れ、沿岸部は「大岡川プロムナード」として整備されており約500本からなる桜の名所であります。

南支部 昭和20年創設 創設時 支部員40名 後に加入者最大70余名に増加昭和49年 港南支部が創設され、支部員を分割。

初代支部長 伊藤 正夫 昭和20年~昭和29年 9年間 勲六等単光旭日章 二代目支部長 森 茂 昭和29年~昭和35年 6年間 神奈川県優秀技能者 三代目支部長 渡辺五郎吉 昭和35年~昭和50年 15年間 神奈川県卓越技能者 四代目支部長 坂巻 正夫 昭和50年~平成1年 14年間 神奈川県優秀技能者 五代目支部長 伊藤金太郎 平成2年~平成19年 18年間 神奈川県卓越技能者 六代目支部長 萩原 茂男 平成19年~平成24年 6年間 横浜市技能功労者 七代目支部長 鶴岡 孝 平成24年~平成27年 4年間 横浜市技能功労者 八代目支部長 伊藤 祐吉 平成27年~現在

平成28年6月現在 南支部員25名

役 員

支部長 伊藤 祐吉

副支部長 松永 博文(労災係兼任) 副支部長 五十嵐 桂(健康保険係兼任)

会計長島真一会計補佐和栗衛一相談役鶴岡孝

顧問渋谷たけし(市会議員)

係・厚生 4 班組

全板福祉保障 桑原 益善

厚 生 宮原栄治郎 役員共済 古家 秀幸

班長1班 遠藤 一夫 2班 佐野 公一

3班 中澤 倫明 4班 小笠原健一

平成28年 南支部定例会



 中澤
 小森
 桑原

 遠藤
 小笠原
 和栗
 立脇
 吉野
 光富
 大嶋

 佐野
 矢野
 萩原
 矢島
 古家

 長島
 五十嵐
 伊藤
 松永
 鶴岡
 宮原

年間行事

定例会(毎月)・新年会(1月)・親睦会研修旅行(2月)・皆勤賞記念品贈呈(4月)・役員選挙南支部決算報告会(5月)・親睦ゴルフコンペ(年2回)・南・港南青年サークル会・バーベキュー(8月)・暑気払い(8月)・敬老の祝い(10月)・忘年会(11月)・家族慰安旅行・ボウリング大会・工場見学など

ごあいさつ

はじめに、熊本地震災害で被災した皆様、被災に遭われた熊本県 板金組合員の方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。一刻も早 い復旧、復興をお祈り申し上げます。

神奈川県板金工業組合 創立50周年を迎えるに当たり、村田理事長はじめ副理事長の皆様方には日頃より大変なご苦労とご指導を賜り、当南支部支部員に成り代わり心より感謝とお礼を申し上げます。またこの記念の年に、南支部長という任に携われたことを誇りに感じております。南支部も昨年は、創立70周年記念式典を開催し大勢のお客様に出席して頂きまして、重ねてお礼申し上げます。支部員一同当組合の発展の為に益々努力してまいります所存でおります。組合員のみなさまには、どうぞご指導、ご協力お願い申し上げます。





南支部員一同

支部の歩み

昭和44年に港南区が誕生して昭和49年に港南区在住の南支部員と一部南区在住の支部員との協力で港南支部が設立されました。当初は15人で発足したそうです。

徐々に組合員もふえて多い時には30名ほどになりました。支部活動としては、毎月1回の定例会を行っております。年に1度の行事としては、新年会・親睦旅行会・技術研修会を開催しています。

しかしながら近年は後継者の減少で廃業する方がふえて組合員の数が少なくなって今では13名の組合員と2名の賛助会員で協力しあいながら活動しています。



歴代支部長

初 代 山本 稔氏 2期 2代目 山崎 忠男氏 1期 3代目 二宮 康雄氏 2期 4代目 菅野 靖弘氏 2期 5代目 二宮 貞男氏 2期 6代目 二宮 康雄氏 4期 7代目 菅野 靖弘氏 2期 8代目 二宮 貞男氏 2期 9代目 佐久間正夫氏 2期 10代目 中沢 勇氏 2期 11代目 林 好重氏 現在



現在役員

支部長 林 好重 副支部長 足沢 春雄 副支部長 福田 長幸 佐久間正和 会 計 無尽係 田村 悠樹 無尽補佐 岡本 昌明 1班長 横田 幸則 2 班長 塙 降憲 厚生部 中島 政雄 厚生部 古家 恒雄 厚生部 宮崎英雄



戸塚区は横浜市の南西部に位置し、起伏の多い地形で昭和14年に戸塚1町7ヶ村が横浜市に合併、 戸塚区となりその後、瀬谷区、泉区、栄区が分区された。

戸塚の駅前開発により、さらに交通の便が良くなり道路が整備され、地下鉄が乗り入れ、湘南台駅で相鉄と小田急に接続し便利になりました。昭和24年組合員9名で戸塚板金工業組合を発足し、昭和43年4月神奈川県板金工業組合に設立参加、同「戸塚支部」となり、昭和51年4月「横浜板金組合連合会」に加入。平成元年10月三喜会館に於いて創立40周年記念式典(組合員15名)を開催し現在に至る。

歴代組合長 (支部長)

初 代 金子 新吉 6代目 更科 隆男 11代目 間川 輝男

 2代目 伊藤
 亀
 7代目 金子
 勇

 3代目 櫻井
 定治
 8代目
 河内
 実

 4代目
 更科
 隆男
 9代目
 櫻井
 俊雄

5代目 斉藤 作蔵 10代目 木村

横浜市優秀技能者表彰

昭和53年 金子 勇 昭和59年 河内 実 昭和60年 櫻井 俊雄 平成 2 年 斉藤 宗孝 平成 5 年 更科 敏雄 平成 9 年 鈴木 孝二 平成13年 櫻井 徹 平成17年 間川 亮太 平成24年 小野井政二

平成24年 田邊 宏行

横浜市技能功労者表彰

昭和54年 櫻井 定治 昭和57年 吉森 西三 昭和61年 斉藤 作蔵 平成2年 金子 勇 平成8年 河内 実 平成15年 間川 輝男

支部員紹介

櫻井 俊雄 間川 輝男 小野井幸二 丸山 忠廣 山村 昇



磯子という街

磯子という街は、根岸湾と言われ古くから漁業、ノリの養殖が行われていました。また、磯の香漂う遠浅の海が広がり潮干狩り、海苔拾いなどの光景があり、山には杉田梅林がありとても風光明媚なところでしたが、やがて埋め立てと国鉄根岸線の建設とともに工場誘致が進み工業地帯となりました。



磯子支部の変遷

磯子区(昭和2年10月)内には、戦前から戦時中にかけて板金同業者の磯子支部という組織があり、資材の配給や仕事の互助等活発に活動していたが、昭和20年以後に自然消滅したと、長老から耳にしていました。

その後、組織の役員だった森 茂氏が佐久間芳男氏を訪れ、磯子区域の半分(磯子町・森町・中原町・杉田町)をまとめ、支部の再建話があり、区内の板金店を1軒、1軒廻り同意者を募り、昭和38年に10名の支部員で磯子支部を結成、再スタートしましたが、以後50数年経過の中、店主の高齢化や後継者の問題等から廃業者が続き、現在は1店のみですが、息子ともども老体に鞭打ち頑張っています。

歴代支部長

初 代 佐久間芳男(昭和38年~昭和43年) 二代目 佐久間弘之(昭和43年~現在に至る)





支部成立年

昭和20年

歴代支部長

佐藤 武雄 岩崎 譲 蒲谷 達雄 土田 和治 山崎 基弘

現在の役員

支部長 土田 和治会 計 小林 正浩総 代 阪谷 末一



支部の生い立ち

歴代の支部会員 佐藤 武雄 斎田忠治郎 八重田富五郎 他 4~5名の方々によって金沢支部を創立したとの事です。

横浜市連合会の役員の方々が金沢支部の役員の所に来られて組合作りの話がすすみ、その当時わずか5~6名ぐらいの人数で始め方々の努力によって人数を増やして現在の支部にしました。

一時は20名位の会員数でしたが現在は少人数でがんばっています。毎月1回支部会をしています。 毎年1回支部員と材料屋さんも参加され慰安旅行や新年の賀詞交換会、その他勉強会もしていま す。

街の紹介

県立金沢文庫。海を埋め立ててつくった人工島の八景島シーパラダイス、人工砂浜で潮干狩り、 金沢動物園などいろいろ楽しみがあります。



祝!神奈川県板金工業組合50周年に寄せて

藤沢板金工業組合(神奈川県板金工業組合藤沢支部)の歩み

藤沢板金工業組合(神奈川県板金工業組合藤沢支部)は昭和13年(1938年)高座郡藤澤銅工職組合として創立され、さらに翌年昭和14年(1939年)に発足した相州銅鐵板金工業組合(高座郡、鎌倉郡、津久井郡、愛甲郡)に賛同、昭和36年(1961年)湘南板金工業組合連合会を(藤沢、鎌倉、大船、逗子、葉山)設立、昭和42年(1967年)設立された神奈川県板金工業組合に加入し藤沢支部になりました。



歴代組合長

1938	昭和13年	初代組合長	金子清太郎
1945	昭和20年	2 代	山口 関蔵
1955	昭和30年	3 代	菊地原清八
1961	昭和36年	4 代	江戸金治郎
1964	昭和39年	5 代	守屋 要蔵
1969	昭和44年	6 代	金子重男
1974	昭和49年	7 代	有田 幸二
1976	昭和51年	8 代	大谷 芳雄
1984	昭和59年	9 代	指簱 庇
1988	昭和63年	10 代	金子 重男
1990	平成4年	11 代	指簱 茂
1997	平成9年	12 代	山口 正芳
2001	平成13年	13 代	中田福二
2007	平成19年	14 代	萩原 敏男

藤沢支部は県板の青年部の活動においては歴代最多の3人の県板青年部部長(指簱、磯和、早川) を輩出しており、関東甲信越青年部の活動において一目置かれる存在の神奈川県板青年部に尽力しております。

藤沢支部内の一年間の事業は、毎月1回の定例会(7日)8月は除く、毎年1月に賀詞交歓会、年1回の家族旅行、年度初めの4月に定例総会、5月の技能まつり(藤沢技能職組合連合会)6月のボウリング大会(藤沢市技能職団体連絡協議会)、年3回程度の講習会などを行っております。その他の事業は神奈川県板の年間事業に準じます。藤沢支部の年間事業で藤沢市周辺市民に一番好評を博している事業にふじさわ産業フェスタ、技能まつり(藤沢技能職組合連合会)に於ける人気事業『銅板表札つくり体験教室』です。パソコンによる書体の編集印刷で手書き書体とは違った大手メーカー注文加工製品に劣らぬ高品質かつ、お客様自身手作りによるオリジナリティあふれ高級感を併せ持った逸品が安価で手に入ると参加者が絶えません。



神奈川県板金工業組合50周年おめでとうございます。

大船・栄支部は、昭和33年の春、堀江仙次郎氏が、大船板金業者の皆様の所に伺い、21名をもって発足いたしました。その後1984年大船・栄支部板金工業組合となりました。発足当時、組合費は150円、組合協定価格が一人工1000円、平葺坪1400円、浪板坪1100円、これらの一割位は安く施工されていました。現在の活動は新年会、納涼会、忘年会、支部の会合、全国板金大会への参加、県板行事への参加などです。

歴代支部長

初 代 堀江仙次郎 七 代 石田 保 二 代 舩木 乗行 八 代 伊藤 眞 三 代 石田 広助 九 代 鈴木宇里生 四 代 佐久間清次郎 十 代 伊藤 眞 五 代 小太刀 健 十一代 舩木 家國 六 代 北嶋 正信 現 在 舩木 弥一



支部員名

支部長舩木弥一会計小泉崇会計監査林次男県板副理事長舩木家國

新倉 直樹 舩木 敏行 大橋 夏樹 佐久間 篤 杉山 淳 林 隆之

県板50周年記念誠におめでとうございます。

定かではないが、明治末期に銅工職人が数軒寄り合って仮称鎌倉銅工職睦会として持ち回り新年 会等の親睦を深めていたことが当会の始まりであったようです。

正式には大正15年4月に、鎌倉銅工職組合として出発したが、時代の変換につれ組合の運営も公的となり統制工業組合に加入し、名称も鎌倉板金工業組合と改称した。また、組合員一同協力して昭和41年3月に創立40周年記念事業を開催した。

その後の経済の発展に伴い組合活動も活発化し、技能士の養成その他の活動に取り組み、50周年、60周年、70周年記念事業を成功させました。

しかし、その後だんだん組合員が時の流れで減少してしまい、現在では一番多い時の 1 / 3 以下の組合員数になってしまいました。本来なら90周年の時期ですが、その分県板で是非頑張って頂きたいと思います。

現在の組合員

鎌倉組合長 浅田 雅一

副組合長 伊沢 豊

県板出向役員 加藤 愼吾

川口 文男

塚越 正二

伊藤 大輔



神奈川県板金工業組合横須賀支部は、一般社団法人横須賀三浦建設協会に籍を置く横須賀三浦板 金工業組合のうち11名の事業主の皆さんが加盟しており、監事の荻野圭吾氏、副理事長の和田英則 氏を輩出しております。

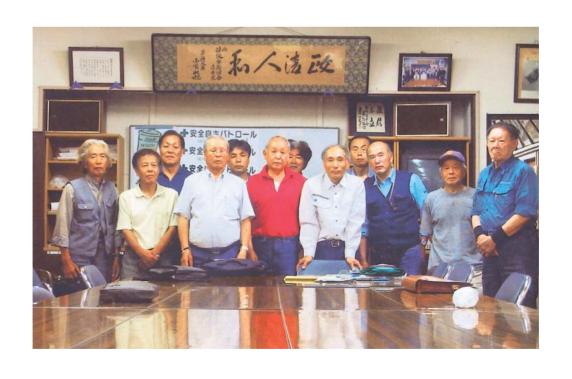
昨今日本各地で起きている前例のないような大災害に対しても胸の痛むおもいでおります。被災 した皆様方には、一日も早い復旧、復興を心よりお祈り申し上げます。

また、我々の住む三浦半島でも活断層が幾重にも存在しており、首都圏直下型地震や東海地震など近々に身近で起きると予測されている大地震に備えを、今こそしっかりしておかねばならないと考えます。

そして不景気や、諸物価の高騰が気になる状況にあり、さらなる生活への影響が心配されます。 このような時代だからこそ我々組合員が一丸となり将来を見据えてしっかりと邁進してゆくこと が必要だと思います。

支部員名

岩野隆丸山寿康荻野圭吾和田英則加藤秀彦熊谷正信小牧光浩松田一司堀江秀太郎藤崎明



歴代組合長

初	代	池谷門	詩太郎	11	代	岡崎	重司
2	代	梅沢	幸七	12	代	大塚	一郎
3	代	野崎	重男	13	代	太田	新
4	代	臼井	喜重	14	代	臼井	喜好
5	代	鈴木優	建次郎	15	代	鈴木	六郎
6	代	植松	安雄	16	代	岡田	朋彦
7	代	杉山郊	5三郎	17	代	杉山	茂
8	代	深堀Ӏ	E次郎	18	代	鈴木	良男
9	代	小川	俊男	19	代	米山	和男
10	代	米山	利男	20	代	二木	哲也

支部の生い立ち

戦前、戦中、戦後を通じ、組合は断続的に存在していました。

組合員の団結の強化、親睦と繁栄、技術の向上を図るため新組合員の加入に努力を続け、昭和35年、梅沢幸七氏、池谷時太郎氏、武藤政吉氏、野崎重男氏、鈴木健次郎氏、植松安雄氏、他多くの諸先輩方の協力により再発足いたしました。昭和43年に神奈川県板金工業組合に加入し、組合旗を作成。

昭和から平成にかわり今日にいたるまで、板金業者の経営安定化に研究と努力を惜しむことなく 重ねてまいりました。

また、昭和63年より大岡越前祭産業フェアに毎年参加。板金技術の向上を図るため水差し、塵トリなどを作成出品しており、地域の皆様方との交流も続けてまいりました。

毎年1月には熱海で新年会も開催して組合員の親睦を深めています。



神奈川県板金工業組合、創立50周年おめでとうございます。

我が平塚板金組合の設立は非常に古く、昭和8年だそうです。そして歴代の諸先輩達のご指導の下に、現在の役員構成にて運営をしております。組合員の高齢化・後継者不足等々で組合員の減少をきたしておりますが、毎月の定例委員会や新年会等で融合を深めています。現代の世相に立ち向かい、今後益々努力をする所存でおります。

初代支部長

記録がない為、不明。

歴代の支部長

山口弥市、伊藤大助(県板副理事長)、佐伯静男、神守啓次郎、木村清、松田軍造、小川角造、加藤福蔵、山本達夫、高梨秀吉(県板副理事長)、増田正義、多田英男、芦川吉寿、鈴野恵一、 秋山啓。

現役員

支部長中岡一郎副支部長小原一彦県板理事山本均会計鈴野猛事務相澤暢子

平成28年7月現在、組合員16名。



神奈川板金工業組合50周年おめでとうございます。支部員、心よりお祝い申し上げます。

歴代支部長

初代支部長	藤田源太郎	昭和40年~昭和44年	4 年間	小田原市技能功労者
二代支部長	正井 保三	昭和44年~昭和48年	4 年間	小田原市技能功労者
三代支部長	柳川 信夫	昭和48年~平成3年	20年間	神板2代理事長(S57~S63) 労働大臣表彰
四代支部長	柳川 辰男	平成3年~平成7年	4 年間	神奈川卓越技能者
五代支部長	前田 常和	平成7年~平成13年	6 年間	小田原市技能功労者
六代支部長	邨田廉太郎	平成13年~平成14.5年	1年1ヶ月	小田原市技能功労者
七代支部長	柳川 辰男	平成14年~現在		厚生労働省マイスター

役 員

支部長柳川辰男理事長遠山正憲副理事長山田喜夫相談役尾崎貞利

会 計 田中 宏和(全板国保理事会計)

会 計 勝俣 雅樹



わが小田原の組合の起源は定かではないが、古老の言によると太子講を催すに当り、仲間の会が必要であるとの思いにより、明治33年頃に相州銅工会として発足した様である。その後、小田原銅工組合と改称して、その後小田原銅工組合を発展的に解消して、新しい時代に即して労働・安全と福利厚生を推進し、技能と品位の向上と、親睦等企業の繁栄を図るに賛同する小田原周辺に在住する61名で、昭和40年1月24日、小田原建築板金組合として創立致しました。昭和42年9月28日、神奈川県板金工業組合創立に際し加入する。レクリエーション、ボウリング大会、工場見学、技能検定、技能コンクールに毎年参加して、好成績をおさめ、現在に至っております。

厚 生 山田 喜夫

1 班 日比野一雄

2 班 秋山 源保

3 班 尾崎 貞利

箱 根 遠山 和憲



相模原支部



歴代支部長

初 代 宮崎 清 二 代 北畠 正央 三 代 磯野 実 四 代 今野 英人 現 在 長谷川丈二

組合員紹介

中島	伸也	長谷川 明	柿澤	靖夫	大石 孝司
磯部	芳男	長谷川丈二	大石	國夫	(上写真)

 岡田
 一夫
 浅井
 道高
 菊池
 裕司
 宮崎健太郎

 小川
 一
 関戸
 信二
 高崎
 真治

※相模原市は県北部にあり、山梨県に接している。

人口は72万人余りで、国道16号沿い(特に橋本地区)は、リニアモーターカーの開設が決まり、 更なる発展が期待されている。

支部の活動は、主に県板活動への参加、支部においては相模原市民桜まつりへの参加などである。







県板50周年記念おめでとうございます。大和板金組合は昭和32年に設立され、後に神奈川県板金工業組合、大和支部として、昭和49年に加入し、活動しています。支部長は、藤田藤吾氏、平本喜代松氏、山下忠良氏、平山氏、松野氏、斉藤護氏、中川龍雄氏、監物光氏、監物庄二氏と引き継がれ現在に至っています。





大和支部青年部の2人

支部成立年

昭和23年頃

歴代支部長

 川田
 国作
 落合
 高司
 早川
 信吉

 鈴村
 茂
 佐藤
 邦治
 加藤
 正好

 和田
 梅三
 早川
 一雄
 斉藤
 茂

 山崎
 徳男
 嶋崎
 一郎
 金子
 春男

早川 良夫 市川 肇



支部長 佐藤 広章

支部長補佐 市川 肇(県板副理事長)副支部長 岡部 降 栗山 勝美

会 計 滝澤 圭三

国保理事 富田 勇作

班 長 会田 晃 鈴村 勉 京田 晃次 斉藤 政紀

 会計監査
 三栖
 幸雄

 青年部長
 市川
 貴章

支部の牛い立ち

昭和20年頃、相州銅鉄板金組合の加入者は厚木愛甲郡で15社くらいでした。

戦争のため一時中断した組合を、落合高司、林谷貞治郎、佐藤邦治氏ら奮起して厚木愛甲板金組合の協力のもと昭和23年頃中央厚木板金組合を設立した。

昭和42年7月28日、横浜に於いて「神奈川県板金工業組合」の創立総会の開催、厚木の組合もその傘下に入り厚木支部として現在に及んでいる

街の紹介

相模川、中津川畔に面し県央最大級のイベントあつぎ鮎まつりを始め、あつぎ飯山桜まつり、相 模川の大凧揚げ(座間市)、中津の八菅神社例祭、田代半僧坊(花よめまつり)等有名である。

支部の産業及び観光

相模川の鮎は昔から有名で新宿まで鮎かつぎの伝説もある。日産・トヨタ・マツダ・ソニーなど有名会社が進出、厚木市愛川町、座間市にかけて工場団地が飛躍している。また、昭和50年代後半からは研究開発型企業の業務・サービスなどの産業も集積され東名高速道路・圏央道・厚木小田原道路・第2東名高速道路などを用いた物流の拠点としてなど多機能を有する地域として成長してきた。

夏は、宮ケ瀬湖・相模川・中津川畔のキャンプ、バーベキュー、つり等で賑わっています。



伊勢原は江戸の昔より大山参りでにぎわう大山、そして日本三大薬師の一つ日向薬師など風光明媚なところです。

歴代支部長

 花井
 京治
 猪俣
 将一
 浅井
 達雄

 小宮
 義晴
 秋山
 文男
 鈴木
 進

 粕谷
 誠
 村井
 兼次
 田代
 三好

 花井
 豊次
 花井
 博
 髙橋
 克彦

猪俣 寿久

平成28年、組合員4名

役 員

県理事猪俣寿久支部長髙橋克彦

会 計 花井 博 関野 隆



年間行事

常会(毎月)、新年会(1月)、暑気払い(8月)。

御挨拶

神奈川県板金工業組合、50周年を迎えるに当たり日頃より理事長はじめ役員の方々にはご指導賜り感謝申し上げます。現在は4人の組合員ですが組合発展のため努力して参ります。



秦野支部の生い立ち

秦野支部の歴史は古く、戦前から地域内の同業者が親睦団体として発足し、当初22名の組合員で 運営されていた。

昭和43年の神奈川県板金工業組合の創立に伴い、秦野組合も加入し正式の県板秦野支部として活動した。

10年前に支部内の事情により現在では僅少の組合員になりましたが、今後旧組合員とも話し合いを行い、秦野支部を再度以前のような組合運営ができるよう努力をしていきたいと考えております。

街の紹介

秦野市は、県の中央西部にあって、東は伊勢原市に、南は中井町と平塚市に、西は松田町と大井町に、北は清川村と厚木市にそれぞれ隣接している。

市の北部は塔ヶ岳、鍋割川、大山など丹沢連峰の南斜面で、南部には渋沢丘陵と呼ばれる台地があり、その間の秦野盆地として盛えた街であります。

明治22年4月の市町村制度施行から、昭和15年に秦野と南秦野が町制を施行し、同30年1月に市政を施行いたしました。

現在、秦野は神奈川県の屋根、丹沢の玄関口であり、小田急線で新宿より75分、小田原より20分、 横浜より60分のところに位置し、「緑豊かな暮らしよい都市」を目指し、丹沢山塊は、若人の山と して知られています。

また、市内の地下水は水質もよく、昭和60年には環境庁が選定した「名水百選」のうち第 1 次選定の31ヶ所に選ばれたのは県内では秦野だけです。その昔、弘法大師が杖をついて水を出したといわれる「弘法の清水」が有名であります。

支部組合員

市川 嘉隆(匠社寺板金)

河口 哲也(河口板金)

久保田和男(久保田板金工業所・理事 総代)

内藤 一正(旬)内藤板金工業)

山口高広(翔工業)



県板青年部のあゆみ

青年部の紹介

青年部は昭和60年5月に親組合の後継者事業の一環として、板金業界の次代を担う青年部員の相互交流と自己の研鑽とを合わせて、部員に資質の向上を図ると共に、業界の発展に貢献することを目的に、13支部81名で発足されました。

·初代部長 鈴木 康男 ·第2代部長 杉本 稔 ·第3代部長 監物 光

・第4代部長 萩原 繁夫 ・第5代部長 指簱 規治 ・第6代部長 山岸 節男

·第7代部長 玉田 恵二 ·第8代部長 磯和 宏一 ·第9代部長 三原 浩治

•第10代部長 石本 雅裕 •第11代部長 柿澤 靖夫

活動内容

青年部行事=定例会(奇数月) 親会行事=ものづくり体験フェスタ・レクリェーション大会 関東甲信越ブロック青年部行事=会員大会・研修会・競技大会準備講習会

全板連 • 日板協行事 = 建築板金業次世代研究会 • 全国建築板金競技大会

役 員

部 長 早川 誠

副部長 萩原 武史(関東甲信越ブロック青年部会計)

会 計 柿澤 靖夫

会計監査 監物 太一

平成28年6月現在、部員8名

御挨拶

神奈川県板金工業組合、創立50周年おめでとうございます。

理事長はじめ組合員の皆様方には日頃よりご協力とご指導を賜り厚く御礼申し上げます。青年部 も現在8名ではございますが、組合の発展の為に頑張ってまいります。







